

最優秀賞

30年ぶりの給食

井上 奈々子

先日、学校給食の試食会に参加しました。小学校を卒業して以来なので30年ぶりの給食です。

私自身は子供の頃、給食が大の苦手でした。パンも牛乳も苦手で、毎日そうじの時間まで教室の後ろで食べていた記憶が残っています。

我が家の子供達は給食が大好き。給食が念願だった三男も春から1年生になり毎日の給食が楽しみ。「今日は、じゃんけんに勝ってご飯2つ食べてん。」「今日の給食はな・・・」毎日帰宅したら給食の話。勉強の話はしないので、毎日給食だけ食べに行ってるみたいやなぁと笑う日々。

私の子供の頃と給食も違うんだらうか？そんな期待をしての試食会でした。

給食の作り方の説明を聞くとお出汁もきちんと取って、使う食材も地産地消。品質管理から衛生管理までしっかりされているとのこと。「学校のカレーはおいしいねんでー。」

って子供達が言うようにルーから手作りされていてブレンドにもこだわっているとのことでした。市販固形ルーのわが家、そりゃおいしいはずだ！と納得でした。

キラキラ人参といって、給食をおいしく食べてもらうように型抜きした人参が時々お楽しみでついてくるそう。大量の給食を作るだけでも大変なのに、愛情いっぱい込められた給食に感動してしまいました。

さて、試食会のメニュー。減量麦ごはん・ちくわの大和茶揚げ・きんぴらごぼう・ナスのみそ汁・牛乳でした。メニューをみて、質素だなあと正直思っていました。でも、実際に食べてみて、この手間ひまかかった給食が本当は一番ぜいたくな食事なのだと気づかされました。きんぴらも子供達が食べやすいようにやわらかく炊いてあるし、おみそ汁も出汁のうまみがしっかりきいていて本当においしかった。初めて食べた減量麦ごはん。噛みごたえがあり、おかずとの固さのバランスも良かったです。

作ってくださる人の努力と愛情を感じると気持ちまで大満足になりました。子供達が毎日すばらしい給食を食べていることに親としても感謝の気持ちになりました。

今だからわかることなのかもしれません。偏食気味だった小学生の頃の私。残さず食べる。私が子供の頃できなかったことを、私の子供達はおかわりという形で私の分まで食べてくれている気がします。

食に感謝の気持ちを持ち、愛情を感じるとどれもがおいしくなるのだと感じました。

私が一番大切にしていることが、家族ができるだけそろって食べる。子供達との楽しい食卓です。

楽しい、愛情いっぱいの食事は、子供達にも自然と感謝の気持ちが育っていると実感しています。食べる事に感謝し、出されたものは残さない、当たり前のことですが大切なことを教えているつもりです。

愛情いっぱいの給食にも感謝の気持ちでいっぱいです。

「今日も、完食しておかわりしてきたでー。」

そんな会話をこれからも続けていきたいです。